

○背景・目的

本市が管理する橋梁は、平成 24 年度 4 月 1 日現在、158 橋の橋梁を管理しており、これまでに点検を実施してきました。

本市の管理橋梁 158 橋のうち、建設年度を 50 年以上経過している橋梁は、全体の約 34% (54 橋) を占めており、20 年後の平成 44 年度には約 74% (117 橋) に増加し、橋梁の高齢化が急速に進行します。

今後は、これらの橋梁の高齢化が急速に進行し、橋梁の修繕および架替えに要する費用が増大する事が懸念されます。

本市ではこれまでに、**大きな損傷が発生してから対処療法的な対策を実施する、「事後保全型」の維持管理**を行ってきました。増大する修繕費や架け替えコスト等の維持管理コストを縮減するためには、**損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う、「予防保全型」の維持管理**へと転換し、橋梁の長寿命化を図ることが必要となります。

そこで本市では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るため、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

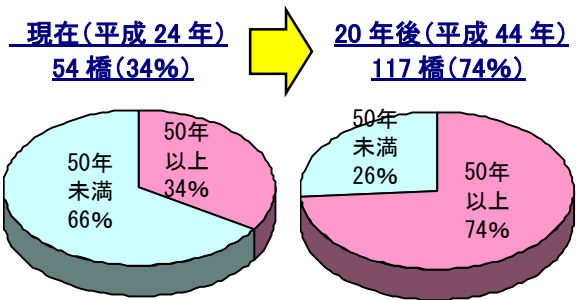
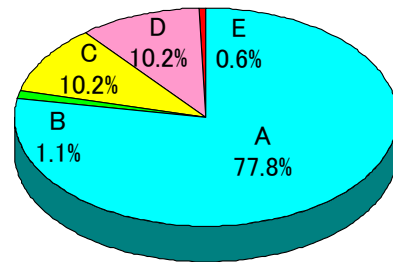


図 建設から 50 年経過した橋梁の割合

対策区分	定義
A	損傷が認められない
B	軽微な損傷で補修の必要がない
C	状況に応じて補修を行う必要がある
D	速やかに補修を行う必要がある
E	緊急対応の必要がある



※点検結果(H23)参照

図 橋梁の対策区分



▲宮津市の管理橋梁状況写真

○橋梁管理の基本方針

本市では、計画的に予防保全を行うため、橋梁点検を実施するとともに、右図のようなサイクルで橋梁の維持管理を行います。

1) 健全度の把握に関する基本方針

橋梁長寿命化修繕計画では、橋梁の現状を把握し、将来の状態を予測することで、かかる費用を推測します。

本市では橋梁の健全度を把握するため、全管理橋梁（158橋）について「基礎データ収集要領（案）」に基づく定期点検を行ってきました。

今後は、継続的に点検を実施していく事で、損傷を早期発見するとともに、点検データを蓄積することで計画の更なる精度向上を目指します。

2) 日常的な維持管理に関する基本方針

定期点検だけでなく、日常的にパトロール車による走行面の変状についての点検を行います。

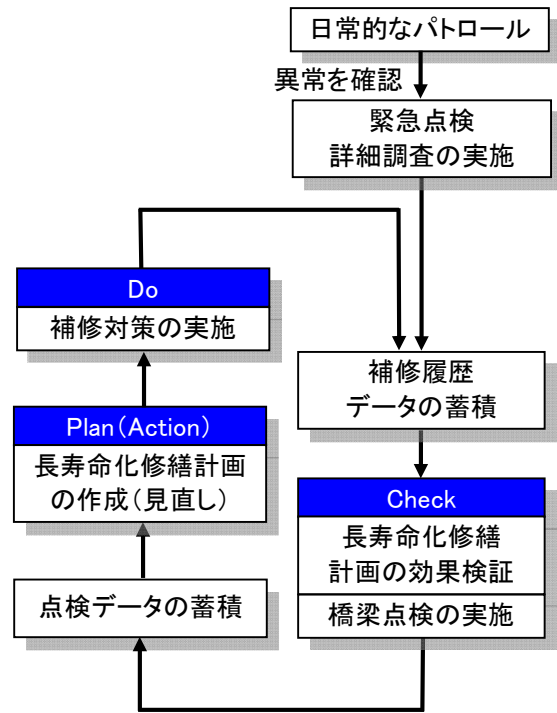


図 橋梁維持管理サイクル



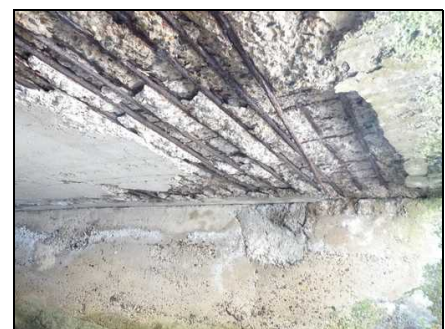
▲橋梁点検状況写真



▲コンクリート橋の損傷



▲鋼橋の損傷



▲コンクリート橋の損傷

⇒これらの橋梁については、本年度から補修対策に取り掛かります

○長寿命化修繕計画による効果

策定した長寿命化修繕計画に基づき、予防保全型の管理により適切な時期に対策を実施した場合、架替えを含む事後保全型の管理を行った場合と比べて、今後80年間で、101億円→26億円（▲75億円）となり、全体の約7割のコスト縮減効果が見込まれます。

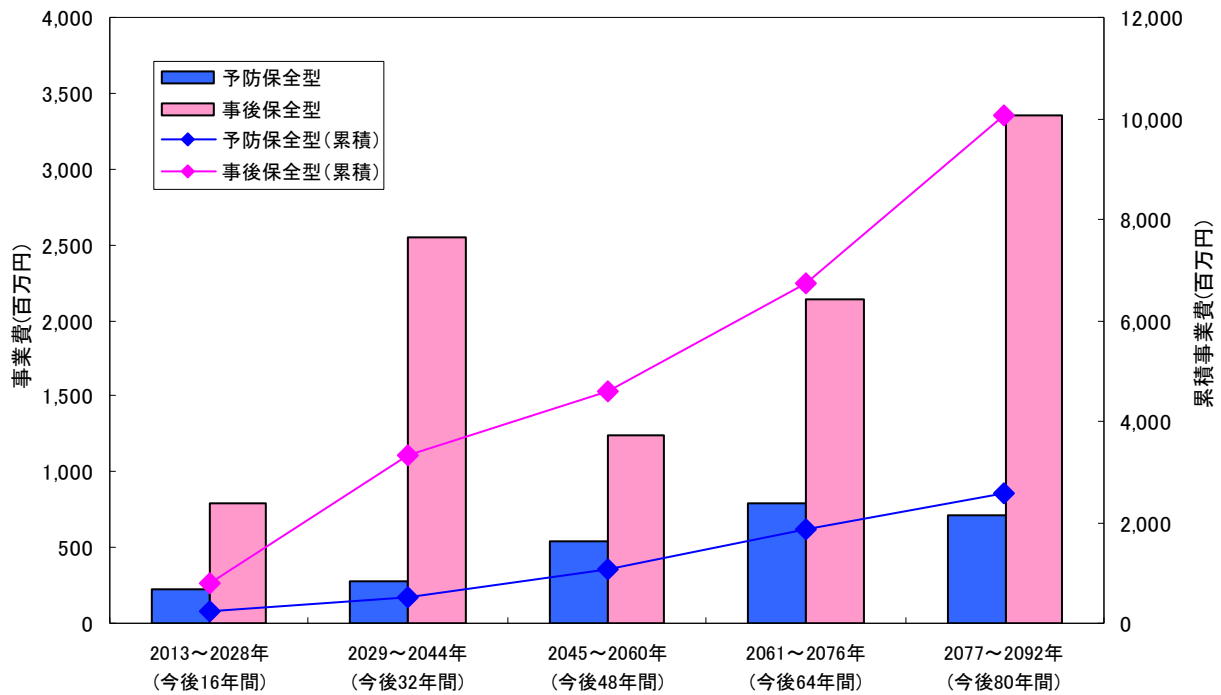


図 長寿命化修繕計画による効果

○計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有するもの

1) 健全度の把握に関する基本方針

宮津市 建設室 土木係 TEL：0772-45-1629

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

舞鶴工業高等専門学校 建設システム工科 玉田 和也 教授